

頁	訂正箇所	誤	正																																																										
P3-116	3.6.2 プレキャストセグメント主桁組立工	<p style="text-align: center;"><b>表3-6-6 諸雑費率</b></p> <p><b>諸雑費</b> 諸雑費は、プレキャストセグメント組立工にかかわる材料費（接着剤、グラウト材（超低粘性型）、コンクリート（端部）、型枠用合板、はく離剤等）、機械器具費（表6.1の機械器具を除く雑機械（重量台車（引き出し用・調整用）、レバーブロック、軌条、グラウトポンプ、ウインチ、ワイヤロープ、グラウト流量計、水槽、真空ポンプ、発動発電機、空気圧縮機等）、消耗品費、電力に関わる経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。 雑機械（セグメント調整設備）にセグメント組立用軌道（1.23×桁長）、重量台車、油圧ジャッキ、レバーブロック、小器材等を含む。引出し軌道は別途計上する。 セグメント組立用軌道の設置撤去費用は別途計上する。</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">3分割</th> <th colspan="3">5分割</th> <th colspan="3">7分割</th> </tr> <tr> <th>中空桁</th> <th>T桁 少数桁 PCコンボ桁</th> <th>PCコンボ桁 (多径間)</th> <th>中空桁</th> <th>T桁 少数桁 PCコンボ桁</th> <th>PCコンボ桁 (多径間)</th> <th>中空桁</th> <th>T桁 少数桁 PCコンボ桁</th> <th>PCコンボ桁 (多径間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>諸雑費率</td> <td>65</td> <td>71</td> <td>82</td> <td>76</td> <td>71</td> <td>87</td> <td>84</td> <td>80</td> <td>97</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) PCコンボ桁（多径間）諸雑費率は架設桁による架設を行う場合にのみ適用出来る。 軌道の有無にかかわらず適用できる。</p>		3分割			5分割			7分割			中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)	中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)	中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)	諸雑費率	65	71	82	76	71	87	84	80	97	<p style="text-align: center;"><b>表3-6-6 諸雑費率</b></p> <p><b>諸雑費</b> 諸雑費は、プレキャストセグメント組立工にかかわる材料費（接着剤、グラウト材（超低粘性型）、コンクリート（端部）、型枠用合板、はく離剤等）、機械器具費（表3-6-8の機械器具を除く雑機械（重量台車（引き出し用・調整用）、レバーブロック、軌条、グラウトポンプ、ウインチ、ワイヤロープ、グラウト流量計、水槽、真空ポンプ、発動発電機、空気圧縮機等）、消耗品費、電力に関わる経費等の費用であり、労務費の合計額に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。 雑機械（セグメント調整設備）にセグメント組立用軌道（1.23×桁長）、重量台車、油圧ジャッキ、レバーブロック、小器材等を含む。引出し軌道は別途計上する。 セグメント組立用軌道の設置撤去費用は別途計上する。</p> <p style="text-align: right;">(%)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">3分割</th> <th colspan="3">5分割</th> <th colspan="3">7分割</th> </tr> <tr> <th>中空桁</th> <th>T桁 少数桁 PCコンボ桁</th> <th>PCコンボ桁 (多径間)</th> <th>中空桁</th> <th>T桁 少数桁 PCコンボ桁</th> <th>PCコンボ桁 (多径間)</th> <th>中空桁</th> <th>T桁 少数桁 PCコンボ桁</th> <th>PCコンボ桁 (多径間)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>諸雑費率</td> <td>65</td> <td>71</td> <td>82</td> <td>76</td> <td>71</td> <td>87</td> <td>84</td> <td>80</td> <td>97</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) PCコンボ桁（多径間）諸雑費率は架設桁による架設を行う場合にのみ適用出来る。 軌道の有無にかかわらず適用できる。</p> <p style="color: red;">上記諸雑費率は架設桁・トラッククレーン併用架設工法にも適用できる。</p>		3分割			5分割			7分割			中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)	中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)	中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)	諸雑費率	65	71	82	76	71	87	84	80	97
	3分割			5分割			7分割																																																						
	中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)	中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)	中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)																																																				
諸雑費率	65	71	82	76	71	87	84	80	97																																																				
	3分割			5分割			7分割																																																						
	中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)	中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)	中空桁	T桁 少数桁 PCコンボ桁	PCコンボ桁 (多径間)																																																				
諸雑費率	65	71	82	76	71	87	84	80	97																																																				
P3-135	3.6.4 プレキャストセグメント主桁組立工	<p>(14) 分割施工接続部グラウト材はつり処理工 分割施工接続部グラウト材はつり処理工は、3.6.3ポストテンション場所打ホロースラブ橋工に準じ別途計上する。</p>	<p>(14) 分割施工接続部グラウト材はつり処理工 分割施工接続部グラウト材はつり処理工は、3.6.3ポストテンション場所打ホロースラブ橋工に準じ別途計上する。</p> <p>※明朝体に修正</p>																																																										

P3-168	3.6.8 PC橋片持架設工	表3-6-69 PCケーブル工歩掛 (ケーブル1t当り)					
		名称	単位	縦 締	横 締		
				1900kN (195t) 型 2200kN (225t) 型 (12S12.4A、12S12.7B)	2900kN (290t) 型 (12S15.2A) 3200kN (320t) 型 (12S15.2B)	570kN (60t) 型 (1S21.8)	950kN (95t) 型 (1S28.6)
		橋りょう世話役	人	4.1	3.9	4.4	2.9
		橋りょう特殊工	〃	21.8	19.3	20.7	14.5
		普通作業員	〃	15.8	13.5	17.0	11.5
		ラフテレーンクレーン運転	日	0.6			
		諸 雑 費 率	%	18	21	15	15
				(30)	(30)	(42)	(38)

(注) 1. 上記歩掛に、現場内小運搬作業は含まれる。  
2. ラフテレーンクレーンは賃料を標準とし、ラフテレーンクレーン規格は、排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジブ型25t吊を標準とする。ただし、これにより難しい場合は、現場条件に適した規格のラフテレーンクレーンを選定する。  
3. 諸雑費は、鋼製シース、グラウト材(超低粘性型)、ビニールテープ、結束線及びシース棚筋等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
4. シースの材料は鋼製シースを標準とし、塩害対策等でポリエチレンシース等を用いる場合の諸雑費は( )内数値とする。  
PCケーブル使用量  
PCケーブル使用量は次式による。  
使用量=設計量×(1+K)

表3-6-70 ロス率 (K)

ロス率	+0.06
-----	-------

P3-168	3.6.8 PC橋片持架設工	表3-6-69 PCケーブル工歩掛 (ケーブル1t当り)					
		名称	単位	縦 締	横 締		
				1900kN (195t) 型 2200kN (225t) 型 (12S12.4A、12S12.7B)	2900kN (290t) 型 (12S15.2A) 3200kN (320t) 型 (12S15.2B)	570kN (60t) 型 (1S21.8)	950kN (95t) 型 (1S28.6)
		橋りょう世話役	人	4.1	3.9	4.4	2.9
		橋りょう特殊工	〃	21.8	19.3	20.7	14.5
		普通作業員	〃	15.8	13.5	17.0	11.5
		ラフテレーンクレーン運転	日	0.6			
		諸 雑 費 率	%	18	21	<b>18</b>	15
				(30)	(30)	(42)	(38)

(注) 1. 上記歩掛に、現場内小運搬作業は含まれる。  
2. ラフテレーンクレーンは賃料を標準とし、ラフテレーンクレーン規格は、排出ガス対策型(第1次基準値)油圧伸縮ジブ型25t吊を標準とする。ただし、これにより難しい場合は、現場条件に適した規格のラフテレーンクレーンを選定する。  
3. 諸雑費は、鋼製シース、グラウト材(超低粘性型)、ビニールテープ、結束線及びシース棚筋等の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
4. シースの材料は鋼製シースを標準とし、塩害対策等でポリエチレンシース等を用いる場合の諸雑費は( )内数値とする。  
PCケーブル使用量  
PCケーブル使用量は次式による。  
使用量=設計量×(1+K)

表3-6-70 ロス率 (K)

ロス率	+0.06
-----	-------

P3-178	3.6.8 PC橋片持架設工	④ タワークレーン運転費単価表														
		i) 商用電力を使用する場合														
		単価 3-42-4号表 タワークレーン運転費 (1基当り)														
		<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>単価</th> <th>金額</th> <th>摘要</th> </tr> <tr> <td>電力料金 タワークレーン運転工計</td> <td>橋りょう特殊工</td> <td>kwh 人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	電力料金 タワークレーン運転工計	橋りょう特殊工	kwh 人				
名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要										
電力料金 タワークレーン運転工計	橋りょう特殊工	kwh 人														
		(注) 1. 使用電力量は、下式による。 使用電力量=タワークレーン原動機総出力(kw)×時間当り電力消費率(0.305kwh/kw)×1日当り運転時間(6.9h)×存置日数(日)×0.714(稼働係数) ただし、存置日数は施工計画による。 2. タワークレーン運転工歩掛は、下式による。 タワークレーン運転工(人)=0.15人/h×6h×存置日数×0.714(稼働係数)														
		ii) 発動発電機を使用する場合														
		単価 3-42-5号表 タワークレーン運転費 (1基当り)														
		<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>単価</th> <th>金額</th> <th>摘要</th> </tr> <tr> <td>発動発電機賃料 軽油 タワークレーン運転工計</td> <td>橋りょう特殊工</td> <td>台・日 リットル 人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	発動発電機賃料 軽油 タワークレーン運転工計	橋りょう特殊工	台・日 リットル 人				
名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要										
発動発電機賃料 軽油 タワークレーン運転工計	橋りょう特殊工	台・日 リットル 人														
		(注) 1. 起動時負荷を機関出力の3倍として考慮した場合、発動発電機の規格は下記とする。 <table border="1"> <tr> <th>タワークレーン規格</th> <th>発動発電機規格</th> </tr> <tr> <td>100t・m</td> <td>200KVA</td> </tr> <tr> <td>120t・m</td> <td>250KVA</td> </tr> </table>	タワークレーン規格	発動発電機規格	100t・m	200KVA	120t・m	250KVA								
タワークレーン規格	発動発電機規格															
100t・m	200KVA															
120t・m	250KVA															
		2. 発動発電機を使用する場合の燃料使用量は下記とする。 燃料(軽油)使用量=時間当たり燃料消費量×1日当り運転時間(6.9h)×存置日数×0.714(稼働係数) ただし、存置日数は施工計画による。 3. タワークレーン運転工歩掛は、下式による。 タワークレーン運転工(人)=0.15人/h×6h×存置日数×0.714(稼働係数) 4. 商用電力を使用する場合は、仮設電力設備費を別途計上する。														

P3-178	3.6.8 PC橋片持架設工	④ タワークレーン運転費単価表														
		i) 商用電力を使用する場合														
		単価 3-42-4号表 タワークレーン運転費 (1基当り)														
		<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>単価</th> <th>金額</th> <th>摘要</th> </tr> <tr> <td>電力料金 タワークレーン運転工計</td> <td>橋りょう特殊工</td> <td>kwh 人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	電力料金 タワークレーン運転工計	橋りょう特殊工	kwh 人				
名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要										
電力料金 タワークレーン運転工計	橋りょう特殊工	kwh 人														
		(注) 1. 使用電力量は、下式による。 使用電力量=タワークレーン原動機総出力(kw)×時間当り電力消費率(0.305kwh/kw)×1日当り運転時間(6.9h)×存置日数(日)×0.714(稼働係数) ただし、存置日数は施工計画による。 2. タワークレーン運転工歩掛は、下式による。 タワークレーン運転工(人)=0.15人/h×6h×存置日数×0.714(稼働係数) <b>3. 商用電力を使用する場合は、仮設電力設備費を別途計上する。</b>														
		ii) 発動発電機を使用する場合														
		単価 3-42-5号表 タワークレーン運転費 (1基当り)														
		<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>規格</th> <th>単位</th> <th>数量</th> <th>単価</th> <th>金額</th> <th>摘要</th> </tr> <tr> <td>発動発電機賃料 軽油 タワークレーン運転工計</td> <td>橋りょう特殊工</td> <td>台・日 リットル 人</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要	発動発電機賃料 軽油 タワークレーン運転工計	橋りょう特殊工	台・日 リットル 人				
名称	規格	単位	数量	単価	金額	摘要										
発動発電機賃料 軽油 タワークレーン運転工計	橋りょう特殊工	台・日 リットル 人														
		(注) 1. 起動時負荷を機関出力の3倍として考慮した場合、発動発電機の規格は下記とする。 <table border="1"> <tr> <th>タワークレーン規格</th> <th>発動発電機規格</th> </tr> <tr> <td>100t・m</td> <td>200KVA</td> </tr> <tr> <td>120t・m</td> <td>250KVA</td> </tr> </table>	タワークレーン規格	発動発電機規格	100t・m	200KVA	120t・m	250KVA								
タワークレーン規格	発動発電機規格															
100t・m	200KVA															
120t・m	250KVA															
		2. 発動発電機を使用する場合の燃料使用量は下記とする。 燃料(軽油)使用量=時間当たり燃料消費量×1日当り運転時間(6.9h)×存置日数×0.714(稼働係数) ただし、存置日数は施工計画による。 3. タワークレーン運転工歩掛は、下式による。 タワークレーン運転工(人)=0.15人/h×6h×存置日数×0.714(稼働係数) <del>4. 商用電力を使用する場合は、仮設電力設備費を別途計上する。</del>														